

目次 ■「グロテスクなトランプに凜と応じたキューバ」…2 ■キューバ政府の声明…4 ■白根全の「キューバの呪い」③…6  
■写真家 チェ・ゲバラが見た世界…7 ■松尾光の「キューバ右往左往」③…8



## 2017 キューバ友好フォーラム

9月9日(土) 13:15~16:15 開場 13:00

# 魅惑のキューバ音楽を満喫しよう

参加費 1000円(会員 500円) ★事前申し込みは必要ありません



街頭のルンバ・パフォーマンス



ソンを代表するトリオ・マタモロス



1983年11月 竹村淳撮影 路上での夜間ライブ

会場 **日本記者クラブ大会議室** TEL 03-3503-2721 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル9階  
最寄り駅は東京メトロ千代田線・日比谷線霞ヶ関駅、東京メトロ丸ノ内線霞ヶ関駅、都営三田線内幸町駅、JR新橋駅日比谷口

日本人を惹きつけるキューバの魅力は多々ありますが、その1つが、その音楽です。マンボ、チャチャチャ、ボレーロ、ルンバ……誰も一度は聴いたことのあるこれらの音楽は、いずれもキューバ音楽です。

今回のキューバ友好フォーラムは、このキューバ音楽を取り上げ、その魅力の源泉をさぐるとともに、日本にいつごろ入ってきたのか、そして、日本人にどう迎えられ、愛好されてきたかを明らかにします。

キューバ友好円卓会議がキューバの音楽を取り上げるのは、2004年のキューバ友好フォーラム「有機農業・医療・教育で世界のトップを行くカリブの奇跡キューバ」、2013年のキューバ友好フォーラム「いま改めて語ろう、キューバの魅力」以来です。



## 講演 キューバ音楽と日本人

講師 竹村 淳さん 音楽ジャーナリスト / 高橋研二さん ラテン音楽愛好家

ハバネラ、ボレーロ、ソン、マンボ、チャチャチャ、パチヤンガなどなど  
キューバで生まれた音楽は、ラテンアメリカ諸国の音楽に大きな影響を与えてきた。  
そんなキューバ音楽と日本人は、どう関わってきたのだろうか。  
これが今回の講演の主たるテーマです。

竹村 淳さん(左) 1981年~05年の24年間NHK-FMでラテンアメリカとカリブ音楽のDJを務める。著書に『ラテン音楽パラダイス』、『ラテン音楽名曲名演ベスト111』、『国境を越えて愛されたうた』など。1985年に(株)テイクオフ(Takemura Officeの略)を設立。キューバのEGREM音源をCD化し紹介に努め、また数枚のアルバムをキューバで録音。83年からキューバ訪問は20回に及ぶ。現在はラテン音楽パラダイス塾を主宰。

高橋研二さん(右) 知る人ぞ知るラテン音楽シーン屈指のレコード&映像コレクター。とくに半世紀以上に及ぶキューバ音楽の膨大なコレクションはまさに貴重きわまりないお宝。現在はラテン文化サロンCafe y Librosで毎月一回第2日曜日に『みんなで、ジャズやラテン、タンゴの映画を見る会』を主宰。ラテン音楽パラダイス塾の常任講師も務めている。

★フォーラム終了後、「ゲバラ没後50年 キューバツアー」(10月5日~13日)の説明会を行います★